

# 地域の自然・文化にふれ合い、ふるさと浮島を誇りに思う心を育む田圃学習

## 福岡県久留米市

活動名

浮島小学校支援地域本部

関係する学校

浮島小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数 1人	子供の平均参加人数 22人	開始年度 13年度	国庫補助 無	学習支援 無	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 有
	学校支援地域本部	コーディネーター数 4人	ボランティア登録数 37人	開始年度 15年度	国庫補助 無	学習支援 無	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 有
基本データ	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティスクール	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携		
		指定日			委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

- 地域が主体となって活動する土曜学習（土曜塾）については、平成13年の福岡県青少年アンビシャス運動の一環として始まった。現在、土曜塾を運営する浮島校区青少年育成協議会が、城島地域青少年育成協議会を経て平成25年に設立されている。土曜塾の活動として、農業体験学習の他に、左義長などの稲作に関わる伝統行事、地域の祭り、伝承遊びである独楽回し大会が行われている。また、平成25年からは、田植や田んぼに生息する稲の益虫の観察、農業俳句づくりなどの農業体験学習の一部を、土曜授業として浮島小学校の教育課程内で実施している。
- 田圃学習を支援する組織は、平成15年に地域・保護者の協力により設立され、平成18年からは農業組合法人うきしま（当時は農事組合「うきしま」）の農業指導員の協力を得るなどして、学社融合の田圃学習推進委員会として構成されている。

特徴

【特徴的な活動内容】

- 五感を通じた農業体験活動を通して、子供たちは地域の豊かな自然環境や農作物に関心を持ち、農家の方の知恵や努力について学ぶことで、ふるさと浮島への愛着を深めていくことをねらっている。
- 農業体験活動の主な内容としては、ペア学年や保幼小の連携として保育園児と一緒に取り組む田植や稲刈り、直接、田んぼの泥と親しむドロリンピックなどがある。特に、5年生に関しては、農業指導員の方の指導を受けながら、田おこしや苗作り、草取りなどの活動を、自分たちで計画・実践するとともに、その内容は学習発表会で全校児童や保護者、地域の方に紹介されている。また、低・中・高学年別に栽培したい作物を選んで畑作を行い、収穫したものを生かした食育にも取り組んでいる。
- 農作物を自分たちの手で育てたという喜びや充実感、すばらしい浮島の自然とふれ合った思い出を農業俳句に表現し、農業体験学習の場で保護者に向けて発表を行っている。

【実施に当たっての工夫】

- 農業体験学習を実施する前に、高学年から他学年児童に向けて具体的な活動に向けたオリエンテーションを行い、児童が主体的に取り組むことができるようにしている。
- 学校支援地域本部のコーディネーターから、田畑での農業体験学習が行われる際には事前に地域の方や保護者に期日を連絡し、多数の方の協力を得ることができるようにしている。

事業を実施して

- 自分たちが生活している浮島校区に愛着を感じている子供の割合は、ほぼ100%に近い数値に達している。また、年度末に作成する学校文集には、多くの子供たちが田植や稲刈りなどを通して自然とふれ合ったことや、友達・保護者・地域の方との心に残る交流の様子、ふるさと浮島のよさや愛着の思いをつづっている。
- 学社融合の田圃学習推進委員会を中心としながら、その他の様々な学校教育活動を支援する学校地域支援本部が組織されることによって、地域の方の学校教育活動への参加率や学校に対する期待感が高い状態にある。

その他

- 地域住民以外にも、JA福岡大城、農業組合法人うきしま【企業】や、久留米市役所城島支所産業振興課【行政】が田圃学習に深く関わっている。
- 田圃学習を通して、子供一人一人に食の大切さや命の大切さを理解させる食育教育を併せて行っており、平成26年度に浮島小学校は久留米市食育推進団体として表彰されている。



保育園児や保護者と一緒に行う田植



農業指導員の方と行う「虫見」